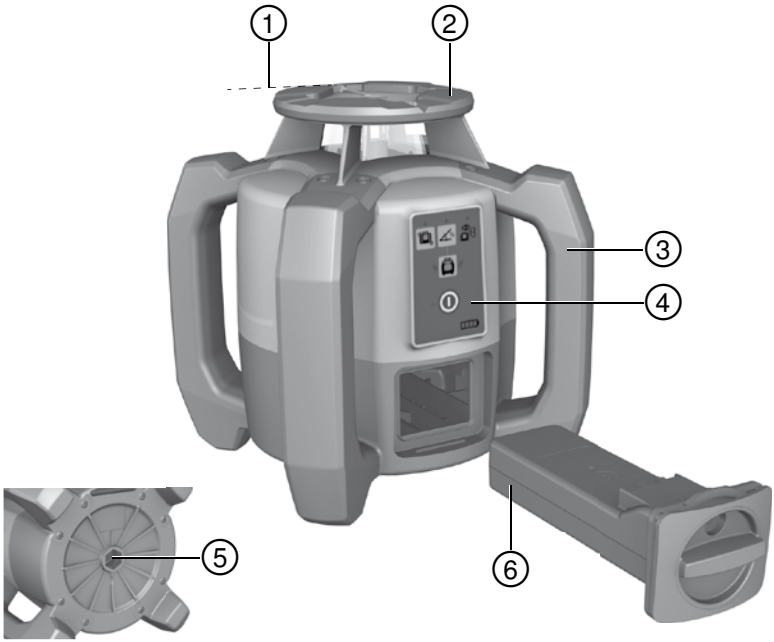
PR 30-HVS

Használati utasítás	hu
Instrukcja obsługi	pl
Инструкция по эксплуатации	ru
Návod k obsluze	cs
Návod na obsluhu	sk
Upute za uporabu	hr
Navodila za uporabo	sl
Ръководство за обслужване	bg
Instrucțiuni de utilizare	ro
Kulllanma Talimatı	tr
دليل الاستعمال	ar
Lietošanas pamācība	lv
Instrukcija	lt
Kasutusjuhend	et
ІНСТРУКЦІЯ З ЕКСПЛУАТАЦІЇ	uk
Пайдалану бойынша басшылық	kk
取扱説明書	ja

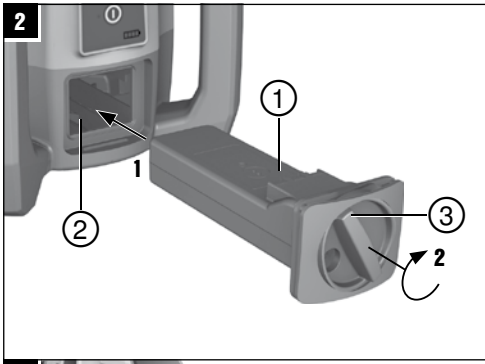
CE

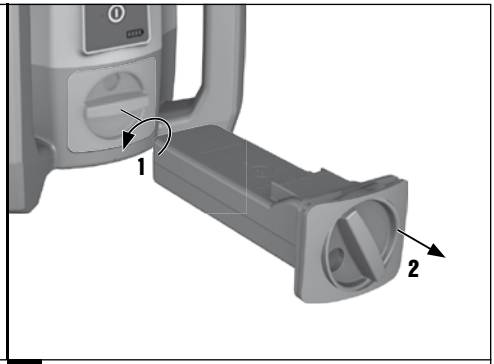
Printed: 29.11.2013 | Doc-Nr: PUB / 5142610 / 000 / 02

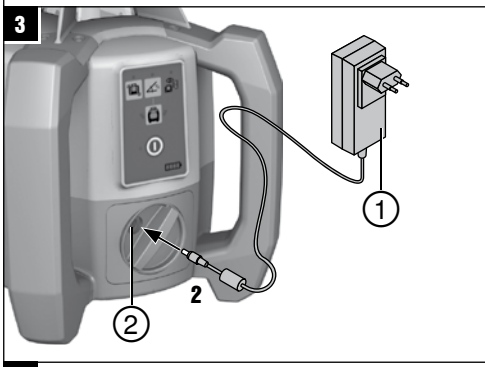
1

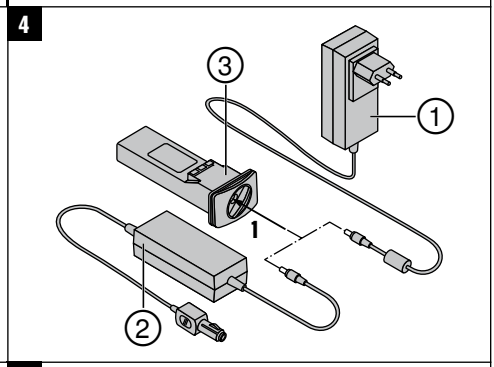


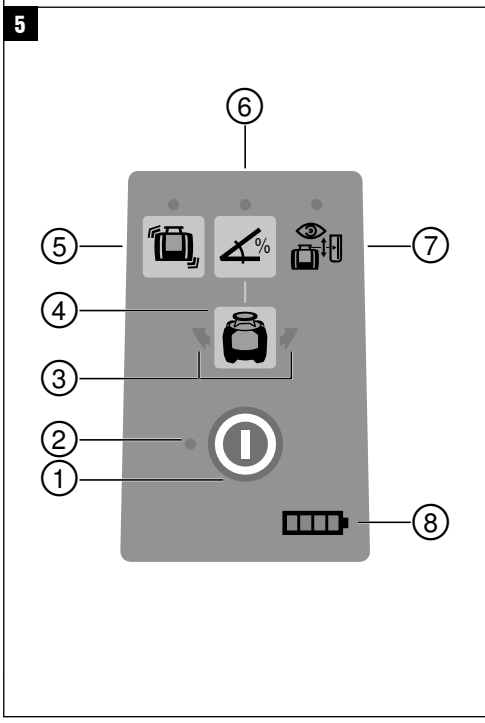
Printed: 29.11.2013 | Doc-Nr: PUB / 5142610 / 000 / 02

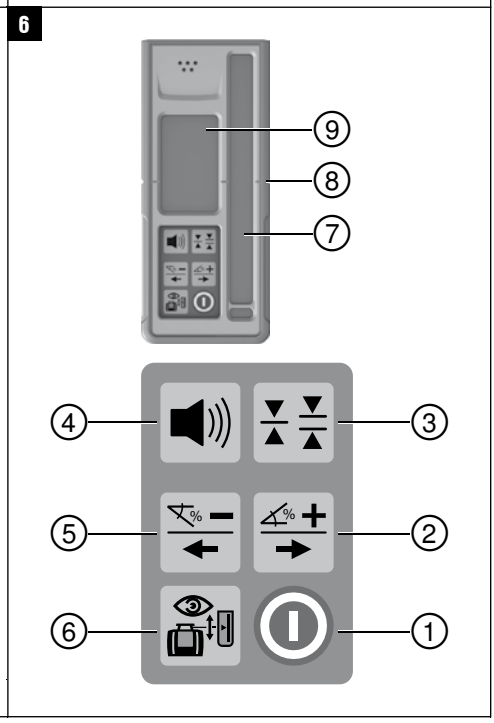






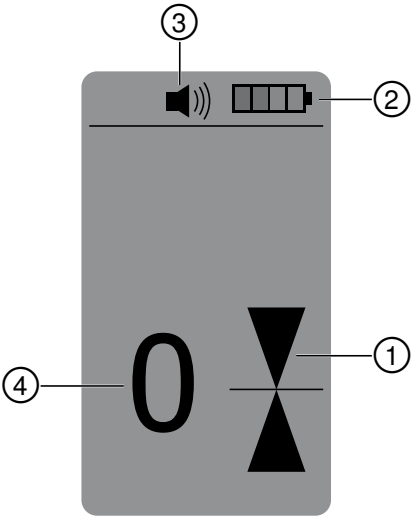






Printed: 29.11.2013 | Doc-Nr: PUB / 5142610 / 000 / 02

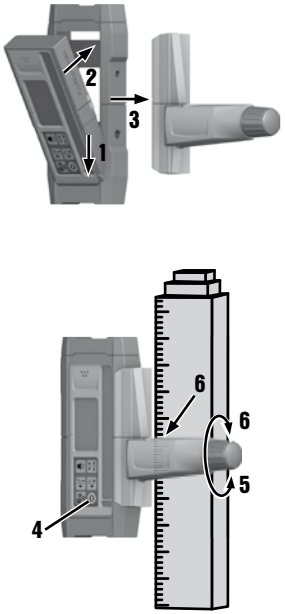
7



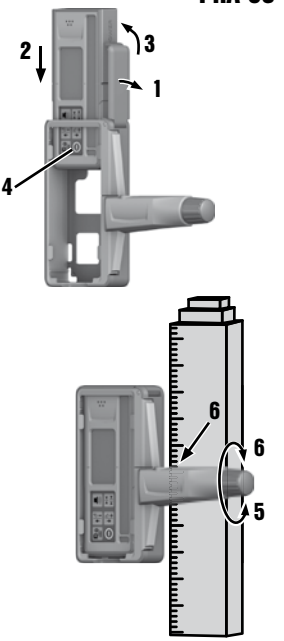
8

9

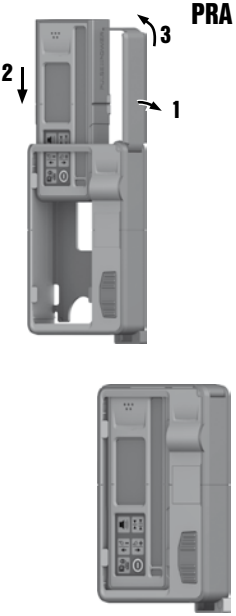
PRA 83



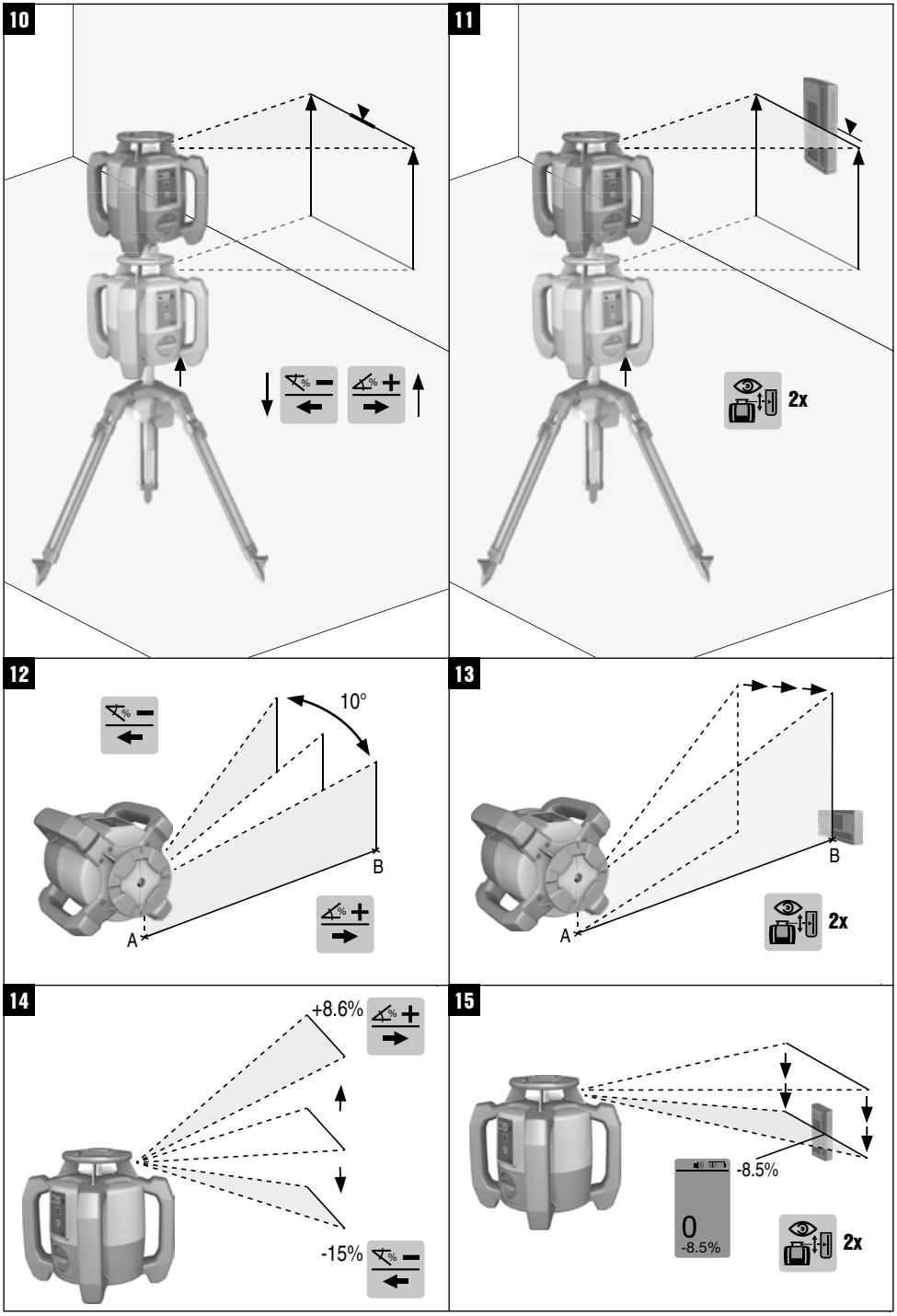
PRA 80



PRA 81

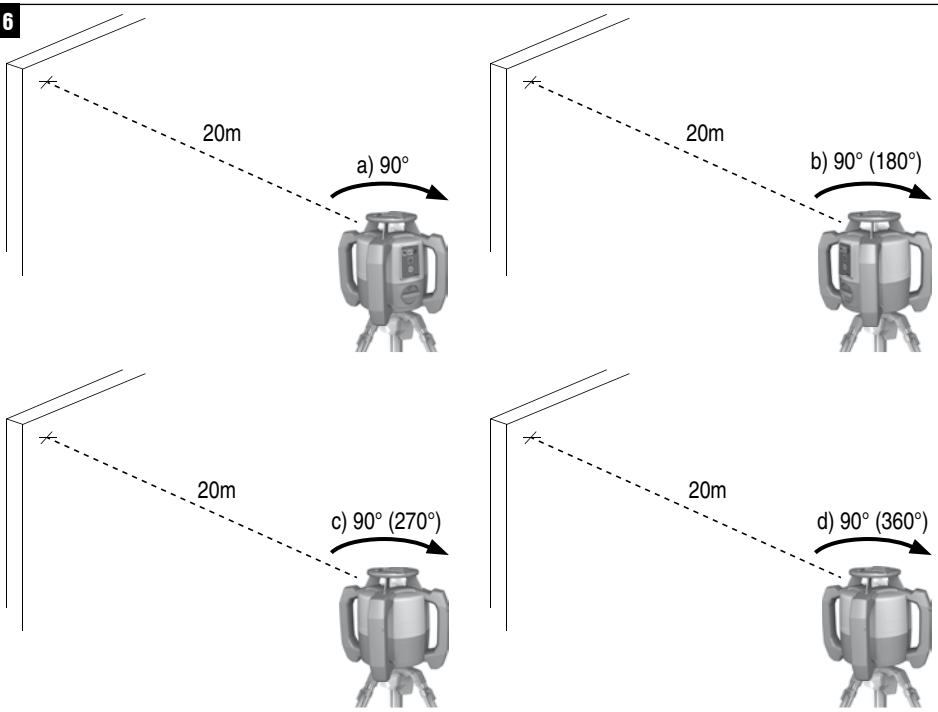


Printed: 29.11.2013 | Doc-Nr: PUB / 5142610 / 000 / 02

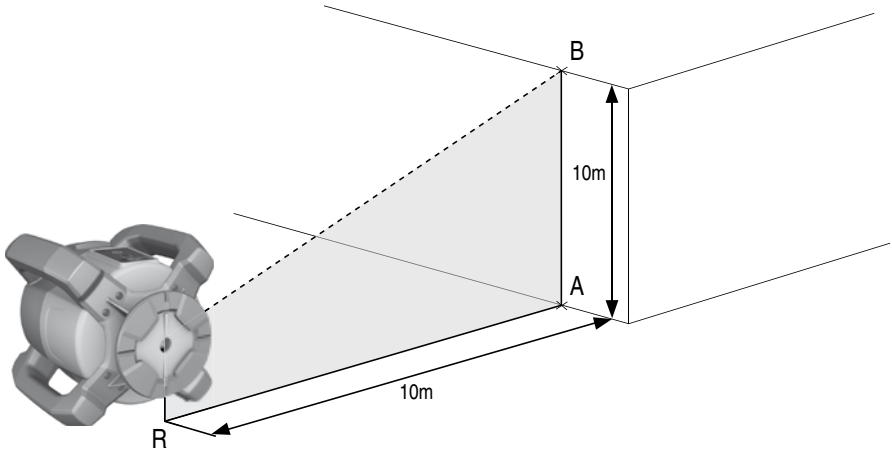


Printed: 29.11.2013 | Doc-Nr: PUB / 5142610 / 000 / 02

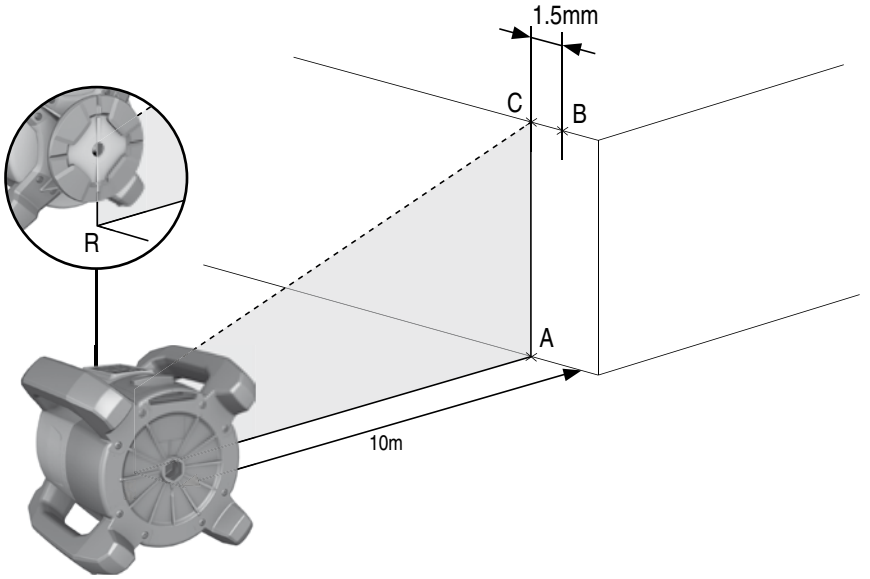
16



17



18



オリジナル取扱説明書

PR 30-HVS 回転レーザー

ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

この取扱説明書は必ず本体と一緒に保管してください。

他の人が使用する場合には、本体と取扱説明書を一緒にお渡しください。

目次	頁
1 一般的な注意	344
2 製品の説明	344
3 アクセサリー	347
4 製品仕様	347
5 安全上の注意	349
6 ご使用前に	351
7 ご使用方法	352
8 手入れと保守	359
9 故障かな？ と思った時	360
10 廃棄	361
11 本体に関するメーカー保証	362
12 FCC 注意事項 （米国用） / IC 注意事項（カナダ用）	362
13 EU 規格の準拠証明 （原本）	363

1 この数字は該当図を示しています。 図は二つ折りの表紙の中にあります。 取扱説明書をお読みの際は、これらのページを開いてください。
この取扱説明書で 「本体」 または 「回転レーザー」 と呼ばれる工具は、 常に PR 30-HVS を指しています。 「リモートコントロールユニット」、「レーザーレシーバー」 または 「レシーバー」 と呼ばれる工具は、 常に PRA 30（03） レーザーレシーバーを指しています。

回転レーザー 1

① レーザービーム （回転面）
② 回転ヘッド
③ グリップ
④ 操作パネル
⑤ 5/8" ネジ付きベースプレート
⑥ PRA 84 Li-Ion バッテリーパック

バッテリーパックの装着と取出し 2

① PRA 84 Li-Ion バッテリーパック
② バッテリー収納部
③ ロック

本体での充電 3

① PUA 81 電源アダプター
② 充電ソケット

本体外での充電 4

① PUA 81 電源アダプター
② PUA 82 自動車用バッテリープラグ
③ バッテリー充電 LED

回転レーザー操作パネル 5

① ON/OFF ボタン
② 自動整準 LED
③ 電子傾斜整準 LED 矢印
④ 電子傾斜整準ボタン （傾斜モードでのみ有効）
⑤ ショック警告システムのボタンと LED
⑥ 傾斜モードのボタンと LED
⑦ 監視モード LED（垂直自動整準の場合のみ）
⑧ バッテリー充電状態表示 LED

PRA 30 操作パネル 6

① ON/OFF ボタン
② 傾斜入力ボタン 「+」 / 方向選択ボタン 「右」 または 「上」（PRA 90 とともに使用）
③ 単位ボタン
④ 音量ボタン
⑤ 傾斜入力ボタン 「-」 / 方向選択ボタン 「左」 または 「下」（PRA 90 とともに使用）
⑥ 自動整準ボタン / 監視モード （垂直）（ダブルクリック）
⑦ 探査エリア
⑧ マーキング用切込み
⑨ 表示

PRA 30 の表示 7

① レーザー受光位置表示
② 電池消耗表示
③ 音量表示
④ レーザーレベルとの距離表示

ja

1 一般的な注意

1.1 安全に関する表示とその意味

危険
この表記は、 重傷あるいは死亡事故につながる危険性がある場合に注意を促すために使われます。

警告事項
この表記は、 重傷あるいは死亡事故につながる可能性がある場合に注意を促すために使われます。

注意
この表記は、 軽傷あるいは所持物の損傷が発生する可能性がある場合に使われます。

注意事項
この表記は、 本製品を効率良く取り扱うための注意事項や役に立つ情報を示す場合に使われます。

1.2 記号の説明と注意事項

略号

ご使用前に取扱説明書をお読みください

一般警告事項

腐食に関する警告事項

電気に関する警告事項

室内でのみ使用してください

リサイクル規制部品です

レーザーを覗き込まないでください

爆発物に関する警告事項

本体に関して

レーザークラス 2（IEC/EN 60825-1:2007 準拠）

本体に関して

レーザークラス II（CFR 21, § 1040（FDA） 準拠）

機種名 ・ 製造番号の表示箇所
機種名および製造番号は本体の銘板に表示されています。 当データを御自身の取扱説明書にメモ書きしておき、 お問い合わせなどの必要な場合に引用してください。

機種名 :

製品世代 : 01

製造番号 :

ja

2 製品の説明

2.1 正しい使用

PR 30-HVS はヘッドを回転させながら可視レーザービームを照射する回転レーザーで、 回転面に対して 90° の角度で照射される基準レーザービームを備えています。 この回転レーザーは垂直方向、 水平方向、 および傾斜方向で使用することができます。
本体は、 水平位置合わせ、 垂直面と傾斜面、 直角の測定、 写しおよびチェックを行うためのものです。 たとえば、 水平墨の写し、 壁面での直角の決定、 基準ポイントに対する垂直位置決め、 傾斜面の設定などの用途が考えられます。
本体はプロ仕様で製作されており、 本体の使用、 保守、 修理を行うのは、 認定、 訓練された人のみに限ります。 これらの人は、 遭遇し得る危険に関する情報を入手していなければなりません。 本体および付属品の、 使用法を知らない者による誤使用、 あるいは規定外使用は危険です。
ヒルティは作業の条件に合わせて様々なアクセサリーを用意しています。
けがの可能性を防ぐため、 必ずヒルティ純正のアクセサリーや先端工具のみを使用してください。
取扱説明書に記述されている使用、 手入れ、 保守に関する事項に留意してご使用ください。
周囲状況を考慮してください。 火災や爆発の恐れがあるような状況では、 本体を使用しないでください。
本体の加工や改造は許されません。

2.2 特徴

本体を使用すると、 一人作業で迅速、 正確なレベル出しや芯出しが可能となります。
本体の電源を入れると、 整準が自動的に行われます。 仕様精度に達すると、 光線が照射されます。
各 LED は運転状態を示します。
本体は再充電可能な Li-Ion バッテリーパックで作動します。 バッテリーパックは動作中でも充電可能です。

2.3 PRA 30 リモートコントロールユニット / レーザーレシーバーとの組み合せ

PRA 30 はリモートコントロールユニットとレーザーレシーバーをひとつに組み合わせたものです。 PRA 30 を使用することにより、 PR 30-HVS 回転レーザーを離れた所から快適に操作することができます。 さらに PRA 30 はレーザーレシーバーとしても機能するので、 比較的離れた場所にレーザービームを表示させることもできます。

2.4 距離のデジタル測定

レーザーレシーバーは、 レーザーレベルとマーキング用切込み間の距離をデジタル表示します。 これにより、 作業ステップで人のいる場所をミリメートル単位で正確につきとめることができます。

2.5 自動整準と監視

PR 30-HVS と PRA 30 を使用することにより、 一人作業でレーザーレベルを自動的に正確に整準することができます。 本体は必要な整準 （水平、 傾斜または垂直） を検知し、 それに応じて自動整準機能 （PRA 90 を使用しての水平および傾斜） あるいはレベルの監視をともなう自動整準機能 （垂直） を適用します。 PRA 30 の監視機能は、 レーザーレベルの整準を自動的に一定の時間間隔でチェックして、 温度変化、 風、 その他の影響で起こり得るずれを防止します。 監視機能は非作動にすることができます。

2.6 特許を取得した電子傾斜整準によるデジタル傾斜表示

デジタル傾斜表示では、 PR 30-HVS が傾斜した状態において 21.3 % までの傾斜を表示することができます。 つまり計算をすることなく傾斜を作成し、 チェックすることができます。 電子傾斜整準により、 傾斜方向の精度を最適なものにすることができます。

2.7 ショック警告システム

本体のスイッチを入れると、 整準が行われてから 2 分後にショック警告システムが作動します。 この 2 分が経過する前にいずれかのボタンを押すと、 その時点から新たに 2 分間の待機時間が開始されます。 作動中に本体が整準範囲から外れると （振動 / 衝撃）、 本体は警告モードに切り換わります。 この場合、 すべての LED が点滅し、 レーザーは照射されなくなります （ヘッドは回転しなくなります）。

2.8 自動オフ

本体が自動整準範囲 （±5°） を超えたか機械的にロックされるとレーザーは照射されなくなり、 LED が点滅します。 本体を 5/8" ネジ付き三脚に取り付けるか、 あるいは振動のないしっかりとした土台の上に据え付けます。 一方向または両方向の自動整準の場合、 サーボシステムは本体が仕様精度内にあるかどうかを監視します。 整準範囲に達しない場合 （本体が整準範囲外にある、 または機械的なロック） や本体が整準範囲から外れた場合、 本体は自動的にオフになります （ショック警告システムの章を参照）。

注意事項
整準が得られない場合、 レーザーは照射されなくなり、 すべての LED が点滅します。

2.9 本体標準セット構成品

1 PR 30-HVS 回転レーザー
1 PRA 30（03） レーザーレシーバー / リモート コントロールユニット
1 PRA 80 または PRA 83 レシーバーホルダー
1 取扱説明書
1 PRA 84 Li-Ion バッテリーパック
1 PUA 81 電源アダプター
2 電池 （単 3 電池）
2 製造証明書
1 本体ケース

2.10 動作状態表示

本体の動作状態表示用として以下の LED があります。 自動整準 LED、 バッテリー充電状態 LED、 ショック警告システム非作動 LED、 傾斜モード LED および電子傾斜整準 LED。

2.11 LED 表示

自動整準 LED	緑の LED が点滅	本体は自動整準中です。
	緑の LED が連続点灯。	本体の自動整準が完了。 正常に作動しています。
ショック警告システム非作動 LED	オレンジの LED が連続点灯	ショック警告システムが非作動になっています。
傾斜モード LED	オレンジの LED が点滅	傾斜面の整準。
	オレンジの LED が連続点灯	傾斜モードが作動。
監視 LED	オレンジの LED が連続点灯	本体は監視モードです。 規準ポイント（PRA 30） へ正しく整準されています。
	オレンジの LED が点滅	本体がレーザーレベルを規準ポイント（PRA 30） へ整準しています。
電子傾斜整準 LED	オレンジの LED 矢印が点滅	本体が 「電子傾斜整準」 モードで PRA 30 がレーザービームを受光していません。
	2 つのオレンジの LED 矢印が連続点灯	本体は PRA 30 へ正しく整準されています。
	オレンジの LED 矢印 （左） が点灯	本体を時計方向に回転させる必要があります。
	オレンジの LED 矢印 （右） が点灯	本体を反時計方向に回転させる必要があります。
全ての LED	全ての LED が点滅	本体が衝撃を受けたか、 整準範囲から外れたか、 故障が発生しています。

2.12 動作中の Li-Ion バッテリーパックの充電状態

LED 点灯	LED 点滅	充電状態 C
LED 1、 2、 3、 4	-	C ≧ 75 %
LED 1、 2、 3	-	50 % ≦ C < 75 %
LED 1、 2	-	25 % ≦ C < 50 %
LED 1	-	10 % ≦ C < 25 %
-	LED 1	C < 10 %

2.13 本体で充電中の Li-Ion バッテリーパックの充電状態

LED 点灯	LED 点滅	充電状態 C
LED 1、 2、 3、 4	-	C = 100 %
LED 1、 2、 3	LED 4	75 % ≦ C < 100 %
LED 1、 2	LED 3	50 % ≦ C < 75%
LED 1	LED 2	25 % ≦ C < 50 %
-	LED 1	C < 25 %

2.14 本体外で充電が行われている際の Li-Ion バッテリーパックの充電実施中表示

バッテリーパックの充電中には赤い LED が連続点灯します。
充電が終了したか、 あるいは充電器が電流を供給していないと、 赤のバッテリー充電 LED は点灯しません。

3 アクセサリー

名称	略号
レーザーレシーバー / リモートコントロールユニット	PRA 30（03）
レーザーレシーバー	PRA 20（02）
レシーバーホルダー	PRA 80
レシーバーホルダー	PRA 83
高さ測定装置	PRA 81
スロープアダプター	PRA 79
電源アダプター	PUA 81
自動車用バッテリープラグ	PUA 82
バッテリーパック	PRA 84
バッテリーパック	PRA 84G
垂直アングル	PRA 770
やり形ホルダー	PRA 750
やり形レシーバーホルダー	PRA 751
フロント面アダプター	PRA 760
三脚	PUA 20
クランク三脚	PA 921
クランク三脚	PUA 30
自動三脚	PRA 90
伸縮スタッフ	PUA 50、 PUA 55

4 製品仕様

技術データは予告なく変更されることがあります。

PR 30-HVS

レシーバーの有効測定距離 （直径）	PRA 30（03） 使用時の標準値 : 2... 500 m
リモートコントロールユニットの有効測定距離 （直径）	PRA 30（03） 使用時の標準値 : 0... 150 m
測定精度[1]	10 m につき : ± 0.75 mm
地墨ポイント	回転面に対して垂直
レーザークラス	クラス 2、 620-690 nm、 < 1 mW（EN 60825-1:2007 / IEC 60825-1:2007）、 クラス II （CFR 21 § 1040（FDA））、 最大出力 < 4.85 mW、 ≧ 300 rpm において
回転速度	600/min, 1,000/min
傾斜範囲	本体が傾斜した状態において : ≦ 21.3%
自動整準範囲	± 5°
供給電源	7.2 V / 4.5 Ah Li-Ion バッテリーパック
バッテリーパックの連続動作時間	温度 +25°C、 Li-Ion バッテリーパック : ≧ 25 h
動作温度	-20... +50°C
保管温度 （乾燥時）	-25... +60°C

[1] 激しい温度変動、 湿度、 衝撃、 転倒などが精度に影響を及ぼす可能性があります。 特に指示のない場合には、 本体は標準環境条件 （MIL-STD-810G） において調整または校正されています。
[2] 落下試験では、 標準環境条件 （MIL-STD-810G） において三脚から平坦なコンクリートへ落下させました。

絶縁クラス	IP 66（IEC 60529 準拠）、「動作中の充電」 モードを除く
三脚取付ネジ	⅝" x 18
重量 （PRA 84 を含む）	2.5 kg
本体寸法 （長 x 幅 x 高）	200 mm x 200 mm x 230 mm
落下試験高さ[2]	1.5 m

[1] 激しい温度変動、 湿度、 衝撃、 転倒などが精度に影響を及ぼす可能性があります。 特に指示のない場合には、 本体は標準環境条件 （MIL-STD-810G） において調整または校正されています。
[2] 落下試験では、 標準環境条件 （MIL-STD-810G） において三脚から平坦なコンクリートへ落下させました。

PRA 30 (03)

レシーバーの使用範囲 （直径）	PR 30-HVS 使用時の標準値 : 2... 500 m
シグナル音	シグナル音の音量切換 （3 段階）
液晶画面	前面および後面
距離表示の範囲	± 52 mm
受光精度	± 0.5 mm
受光領域の長さ	120 mm
ビームセンター表示位置 （本体上端から）	75 mm
マーキング用切込み	両側
自動カットオフが作動するまでの探索の行われない待機時間	15 min
本体寸法 （長 × 幅 × 高）	160 mm × 67 mm × 24 mm
重量 （電池を含む）	0.25 kg
供給電源	単 3 アルカリ電池 2 本
電池寿命	温度 +20°C : 約 40 時間 （アルカリマンガン電池の品質により異なる）
動作温度	-20... +50°C
保管温度	-25... +60°C
絶縁クラス	IP 66（IEC 60529 準拠）、 電池収納部外
落下試験高さ[1]	2 m

[1] 落下試験では、 PRA 83 レシーバーホルダーに入れた状態で標準環境条件 （MIL-STD-810G） において平坦なコンクリートへ落下させました。

PRA 84 Li-Ion バッテリーパック

電源電圧 （通常モード）	7.2 V
最高電圧 （動作時または動作中の充電時）	13 V
消費電流	180 mA
充電時間	温度 +32°C : 2 時間 10 分 （バッテリーパック 80 % 充電）
動作温度	-20... +50°C
保管温度 （乾燥時）	-25... +60°C
充電温度 （動作中の充電の場合も含む）	+0... +40°C
重量	0.3 kg
本体寸法 （長 x 幅 x 高）	160 mm x 45 mm x 36 mm

PUA 81 電源アダプター

主電源	115... 230 V
周波数	47... 63 Hz
定格出力	36 W
電圧	12 V
動作温度	+0... +40°C
保管温度 （乾燥時）	-25... +60°C
重量	0.23 kg
本体寸法 （長 x 幅 x 高）	110 mm x 50 mm x 32 mm

5 安全上の注意

5.1 基本的な安全情報

この取扱説明書の各項に記された安全注意事項の外に、下記事項を必ず守ってください。

5.2 一般的な安全対策

a) **安全機構を無効にしたり、 注意事項や警告事項のステッカーをはがしたりしないでください。**
b) **本体を使用の際には、 油断せずに十分注意し、 常識をもった作業をおこなってください。 疲れている場合、 薬物、 医薬品服用およびアルコール飲用による影響下にある場合には本体を使用しないでください。** 本体使用中の一瞬の不注意が重傷の原因となることがあります。
c) **本体を子供の手の届かない所に置いてください。**
d) 認定を受けていない人が本体を分解すると、 クラス 2 または 3 を超えるレーザーが放射されることがあります。 **修理は必ず、 ヒルティサービスセンターに依頼してください。**
e) **爆発の危険性のある環境 （可燃性液体、 ガスおよび粉じんのある場所） では本体を使用しないでください。** 本体から火花が飛散し、 粉じんや揮発性ガスに引火する恐れがあります。
f) （FCC § 15.21 に準拠した注意事項） ヒルティの認可のない改造や変更を行うと、 ユーザーは本体を操作する権利を失うことがあります。
g) ここに記載された以外の操作用具や調整用具を使用したり、 あるいは指示とは異なる方法で使用すると、 ビームが危険をもたらすことがあります。
h) **ご使用前に本体をチェックしてください。 本体に損傷のある場合は、 ヒルティサービスセンターに修理を依頼してください。**
i) **本体のお手入れは慎重におこなってください。 本体の可動部分が引っ掛かりなく正常に作動しているか、 本体の運転に影響を及ぼす各部分が破損・損傷していないかを確認してください。 本体を再度ご使用になる前に、 損傷部分の修理を依頼してください。** 事故の多くは、 保守管理の不十分な本体を使用したことが原因で発生しています。
j) **もし本体が落下やその他の機械的な圧力を受けた場合は、 本体の作動と精度をチェックしてください。**
k) **重要な測定前には、 本体を点検してください。**
l) **使用中に測定精度を何度か点検してください。**
m) **極度に低温の場所から高温の場所に移す場合、 あるいはその逆の場合は、 本体温度が周囲温度と同じになるまで待ってから使用してください。**
n) **アダプターを使用するときは、 本体がしっかりネジ込まれていることを確認してください。**
o) **不正確な測定を避けるために、 レーザー光線の照射窓は常にきれいにしておいてください。**
p) **本体は現場仕様に設計されていますが、 他の光学および電子機器 （双眼鏡、 眼鏡、 カメラなど） と同様、 取り扱いには注意してください。**
q) **本体は防湿になっていますが、 本体ケースに入れる前に必ず水気を拭き取り、 乾いた状態で保管してください。**
r) **電気接点を雨や湿気から保護してください。**
s) **電源アダプターは必ず主電源に差し込んでください。**
t) **本体と電源アダプターは邪魔にならない安全な場所に設置し、 落下したり怪我したりすることがないようにしてください。**
u) **作業場の採光に十分配慮してください。**
v) **延長コードを定期的に点検し、 損傷している場合は交換してください。 作業中、 電源アダプター、 延長コードが損傷した場合、 電源アダプターには触れないでください。 不意に始動しないように電源コードをコンセントから抜きます。** 損傷した電源コードや延長コードは感電の原因となり危険です。
w) **パイプ、 ラジエーター、 電子レンジ、 冷蔵庫などのアースされた面に体の一部が触れないようにしてください。** 体が触れると感電の危険が大きくなります。
x) **電源コードを火気、 オイル、 鋭利な刃物等に触れる場所に置かないでください。**
y) **電源アダプターを、 濡れた状態や泥が付着したままの状態で絶対に使用しないでください。 電源アダプター表面に導電性のある粉じんや水分が付着すると、 時に感電の恐れがあります。 したがって特に伝導性のある母材に対して作業を頻繁に行う場合は、 定期的にヒルティサービスセンターに本体の点検を依頼してください。**

z) 電気接点に触れないでください。

5.2.1 バッテリーの慎重な取扱いおよび使用

a) **バッテリーパックは高温と火気を避けて保管してください。** 爆発の恐れがあります。
b) **バッテリーパックを分解したり、 挟んだり、 75 °C 以上に加熱したり、 燃やしたりしないでください。** これを守らないと、 火災、 爆発、 腐食の危険があります。
c) **湿気が入らないようにしてください。** 水が浸入すると、 短絡や化学反応を引き起こしたり、 火傷や火災が発生する可能性があります。
d) バッテリー / バッテリーパックの使用が正しくないと、液漏れが発生することがあります。 **その場合、 漏れた液には触れないでください。 もしも触れてしまった場合は、 水で洗い流してください。 液体が眼に入った場合は、 水で洗い流してから医師の診察を受けてください。** 流出したバッテリー液により、 皮膚が刺激を受けたり火傷を負う恐れがあります。
e) **必ず本体用に許可されたバッテリーパックを使用してください。** その他のバッテリーパックを使用したり、 他の目的でバッテリーパックを使用すると、 火災や爆発の危険があります。
f) **Li-Ion バッテリーパックの搬送、 保管、 作動には特別規定を守ってください。**
g) **使用しないバッテリーパックまたは充電器の近くに、 事務用クリップ、 硬貨、 キー、 釘、 ネジ、 その他の小さな金属片を置かないでください。 バッテリーパックまたは充電器の電気接点の短絡が起こることがあります。** バッテリーパックまたは充電器の電気接点間が短絡すると、 火傷や火災が発生する危険があります。
h) **バッテリーパックの短絡は避けてください。** バッテリーパックを装着する前に、 バッテリーの電気接点と本体内部に異物が入っていないか確認してください。 バッテリーパックの電気接点が短絡すると、 火災や爆発、 腐食の恐れがあります。
i) **損傷したバッテリーパック (例えば亀裂や破損箇所があったり、 電気接点が曲がっていたり、 押し戻されていたり、 引き抜かれているバッテリーパック) の充電や使用はしないでください。**
j) **本体の動作とバッテリーパックの充電には必ず PUA 81 電源アダプター、 PUA 82 自動車用バッテリープラグあるいはその他のメーカー推奨の充電器を使用してください。** これ以外のものを使用すると、 本体が損傷する恐れがあります。 特定タイプのバッテリーパック専用の充電器を他のバッテリーパックに使用すると、 火災の恐れがあります。

5.3 作業場の安全確保

a) **測定場所の安全を確保し、 本体を設置するときは、 レーザー光線が他人や自分に向いていないことを確かめてください。**
b) **梯子や足場の上で作業を行うときは、 不安定な態勢にならないように注意してください。 足元を確かにし、 常にバランスを保ちながら作業してください。**
c) 反射のある物体あるいは表面付近での測定、 ガラスあるいはそれに類似する物質を通しての測定では、 正確な測定結果が得られない可能性があります。
d) **本体は振動のないしっかりとした土台の上に据え付けてください。**
e) **本体は必ず決められた使用制限内で使用してください。**
f) PR 30-HVS がご自分の使用している PRA 30 にのみ反応し、 建設現場で使用されている他の PRA 30 には反応しないことを確認してください。
g) **「動作中の充電」 モードでの作業中には、 三脚などで電源アダプターを確実に固定してください。**
h) 製品を指定された用途以外に使用すると危険な状況をまねく恐れがあります。 **本説明書内の指示に従うとともに、 各形式に合った製品、 アクセサリー、 アタッチメントを使用してください。 この際、 作業環境および用途に関してもよくご注意ください。**
i) **高圧配線の近くではスタッフを使用した作業は許可されません。**

5.3.1 電磁波適合性

本体は厳しい規則に適合するように設計されていますが、 強い電磁波の照射により障害を受けて、 機能異常が発生する恐れがあります。 以上のような状況下で測定を行う場合は、 読取り値が惑わされていないかチェックしてください。 また他の装置 (航空機の航法システムなど) に影響を及ぼす可能性もあります。

5.3.2 レーザークラス 2 / クラス II の本体のレーザー分類

本体は IEC 60825-1:2007 / EN 60825-1:2007 に準拠するレーザークラス 2 および CFR 21 § 1040 (FDA) に準拠するクラス II に準じています。 本体の使用にあたっては特別な保護装置は必要ありません。 万一レーザー光線を少しでも覗き込んでしまった場合、 まぶたが反射的に閉じることにより目を保護します。 この反射動作は、 薬、 アルコール、 薬品によって影響を受けますのでご注意ください。 さらに、 太陽光線と同様、 光源を直接覗き込むようなことは避けてください。 レーザービームを他の人に向けないでください。

6 ご使用前に

注意事項
本体を作動させるには、 必ずヒルティ PRA 84 または PRA 84G バッテリーパックを使用してください。

6.1 バッテリーパックの装着 2

注意
バッテリーパックを本体に装着する前に、 バッテリーパックの電気接点と本体の電気接点に異物が入っていないか確認してください。

1. 本体にバッテリーパックを挿入します。
2. 「ロック」 マークが現れるまでロックを時計方向に回してください。

6.2 バッテリーパックの取外し 2

1. 「ロック解除」 マークが現れるまでロックを反時計方向に回してください。
2. バッテリーパックを本体から引き出します。

6.3 バッテリーパックの充電

危険
必ず指定されたヒルティバッテリーパックと、「アクセサリー」 の項に記載のヒルティ電源アダプターを使用してください。 明らかに損傷の認められる本体 / 電源アダプターは使用してはなりません。

6.3.1 新しいバッテリーパックの初回充電

はじめてお使いになる前にはバッテリーパックをフル充電してください。
注意事項
その際は充電するシステムを安定した状態に保ってください。

6.3.2 バッテリーパックの再充電

1. バッテリーパックの外側に汚れがなく、 また濡れていないことを確認してください。
2. バッテリーパックを本体に挿入します。
   注意事項Li-Ion バッテリーパックは、 部分的にしか充電されていない状態であっても常に使用することができます。
   本体の電源がオンになっていると、 充電の進捗状況が LED により表示されます。

6.4 バッテリーパック充電用のオプション

注意事項
充電時には、 温度が推奨充電温度 (0 ... 40 °C) の範囲内にあることを確認してください。

危険
PUA 81 電源アダプターは屋内でのみ使用できます。 湿気が入らないようにしてください。

6.4.1 本体でのバッテリーパックの充電 3

1. バッテリーパックをバッテリー収納部に挿入します (6.1 を参照)。
2. ロックを回してください。 バッテリーパックの充電ソケットが現れます。
3. 電源アダプターのプラグまたは自動車用バッテリープラグをバッテリーパックに差し込みます。
   バッテリーパックが充電されます。
4. 充電中に充電状態を表示するには、 本体の電源をオンにします。

6.4.2 本体以外でのバッテリーパックの充電 4

1. バッテリーパックを取り出します (6.2 を参照)。
2. 電源アダプターのプラグまたは自動車用バッテリープラグをバッテリーパックと接続します。
   バッテリーパックの赤の LED が充電の行われていることを知らせます。

6.4.3 動作中のバッテリーパックの充電

危険
屋外および湿気の多い環境では、「動作中の充電」 モードでの使用は許可されません。

注意
湿気が入らないようにしてください。 水が浸入すると、 短絡や化学反応を引き起こしたり、 火傷や火災が発生する可能性があります。

1. ロックを回してください。 バッテリーパックの充電ソケットが現れます。
2. 電源アダプターのプラグをバッテリーパックに差し込みます。
   本体は充電中も作動し、 本体の LED がバッテリー充電状態を表示します。

6.5 バッテリーパックの慎重な取扱い

バッテリーパックを使用しない場合は、 できるだけ涼しくて乾燥した場所に保管してください。 バッテリーパックを太陽の直射下、 ラジエーターの上、 窓際等で保管しないでください。 寿命となったバッテリーパックの廃棄は、 リサイクル規制により定められた方法で確実に行ってください。

6.6 本体の電源をオンにする

ON/OFF ボタンを押します。
注意事項
電源が入ると、 本体の自動整準サーボ機構が作動します。 整準が完了すると、 レーザー光線が回転方向と基準方向に照射されます。

6.7 LED 表示

第 2 章の 「製品の説明」 を参照

ja

6.8 PRA 30 への電池の装着 8

危険
損傷した電池は使用しないでください。

危険
古い電池と新しい電池を混ぜないでください。 メーカーの違う電池や種類の違う電池を混ぜないでください。

注意事項
PRA 30 には必ず国際標準に準拠した電池を使用してください。

1. レーザーレシーバーの電池収納部を開きます。
2. 電池をレーザーレシーバーに装着します。
   注意事項装着の際には電池の極性を間違わないよう注意してください。
3. 電池収納部を閉じます。

6.9 ペアリング

本体とリモートコントロールユニット / レーザーレシーバーは納品状態でペアリングされています。 同一タイプの他のレーザーレシーバーあるいは PRA 90 自動三脚は、 ペアリングを行わなければ使用できません。 本体をこのアクセサリーとともに使用するには、 本体とアクセサリーの双方の相互設定、 すなわちペアリングが必要です。 装置のペアリングにより、 それぞれの装置が一意的に相互に割り当てられます。 ペアリングにより本体と PRA 90 自動三脚は、 ペアリングされたリモートコントロールユニット / レーザーレシーバーからの信号のみを受信します。 ペアリングを行うことで、 他の回転レーザーの横で作業をしていても、 設定が変更される危険がありません。

6.9.1 本体とレーザーレシーバーのペアリング

1. 本体とレーザーレシーバーの ON/OFF ボタンを同時に押して、 3 秒以上押し続けます。
   ペアリングが正常に終了すると、 レーザーレシーバーではシグナル音が鳴り、 本体では全ての LED が点滅します。 同時にレーザーレシーバーのディスプレイに短時間 「ペアリング」 の記号が表示されます。 本体とレシーバーは、 ペアリングの後自動的にオフになります。
2. ペアリングされた装置をオンにします。
   ディスプレイに 「ペアリング」 の記号が表示されます。

6.9.2 PRA 90 とレシーバーのペアリング

1. PRA 90 自動三脚とレーザーレシーバーで同時に ON/OFF ボタンを押し、 そのまま 3 秒以上押し続けてください。
   ペアリングが正常に終了すると、 レーザーレシーバーではシグナル音が鳴り、 PRA 90 自動三脚では全ての LED が点滅します。 同時にレーザーレシーバーのディスプレイに短時間 「ペアリング」 の記号が表示されます。 三脚とレシーバーは、 ペアリングの後自動的にオフになります。
2. ペアリングされた装置をオンにします。
   レーザーレシーバーのディスプレイに本体と三脚が表示されます。

ja

7 ご使用方法

7.1 本体の点検

重要な測定の前、 また特に本体を床に落下させてしまった場合、 あるいは本体に好ましくない機械的な外力が作用した場合には、 本体の測定精度を点検してください (8.6 を参照)。

7.2 本体の電源をオンにする

ON/OFF ボタンを押します。
注意事項
電源が入ると、 本体の自動整準サーボ機構が作動します。

7.3 PRA 30 の使用方法

PRA 30 はレーザーレシーバーであると同時に、 リモートコントロールユニットとしても機能します。 リモートコントロールユニットにより回転レーザーの操作が快適に行えます。 また、 本体のいくつかの機能を使用するにはリモートコントロールが必要となります。 液晶表示とシグナル音によりレーザービームの受光位置が示されます。

7.3.1 手に持ったレーザーレシーバーの使用方法

1. ON/OFF ボタンを押します。
2. レーザーレシーバーを、 回転するレーザービームが受光領域に直接当たるように保持してください。

7.3.2 PRA 80 レシーバーホルダーに取り付けたレーザーレシーバーの使用方法 9

1. PRA 80 のロックカバーを開きます。
2. レシーバーを PRA 80 レシーバーホルダーに取り付けます。
3. PRA 80 のロックカバーを閉じます。

4. ON/OFF ボタンを押してレシーバーの電源をオンにします。
5. 回転グリップを緩めます。
6. PRA 80 レシーバーホルダーを伸縮スタッフまたは整準スタッフに取り付け、 回転グリップを締め付けて確実に固定します。
7. レシーバーを、 回転するレーザービームが受光領域に直接当たるように保持してください。

7.3.3 PRA 83 レシーバーホルダーに取り付けたレーザーレシーバーの使用方法 9

1. レシーバーを PRA 83 のラバーシェルに斜めに押し込みます、 レシーバーが完全にラバーシェル囲まれるように装着してください。 受光領域とボタンが前側にあることを確認します。
2. レシーバーをラバーシェルとともにグリップピースに差し込みます。 マグネットホルダーがシェルとグリップピースを接続します。
3. ON/OFF ボタンを押してレシーバーの電源をオンにします。
4. 回転グリップを緩めます。
5. 回転グリップを締め付けて、 PRA 83 レシーバーホルダーを伸縮スタッフまたは整準スタッフに確実に固定します。
6. レシーバーを、 回転するレーザービームが受光領域に直接当たるように保持してください。

7.3.4 PRA 81 高さ測定装置の使用方法 9

1. PRA 81 のロックカバーを開きます。
2. レーザーレシーバーを PRA 81 高さ測定装置に取り付けます。
3. PRA 81 のロックカバーを閉じます。
4. ON/OFF ボタンを押してレーザーレシーバーの電源をオンにします。
5. レーザーレシーバーを、 回転するレーザービームが受光領域に直接当たるように保持してください。
6. レーザーレシーバーを距離表示が 「0」 になる位置にします。
7. 巻尺を使用して希望の間隔を測定します。

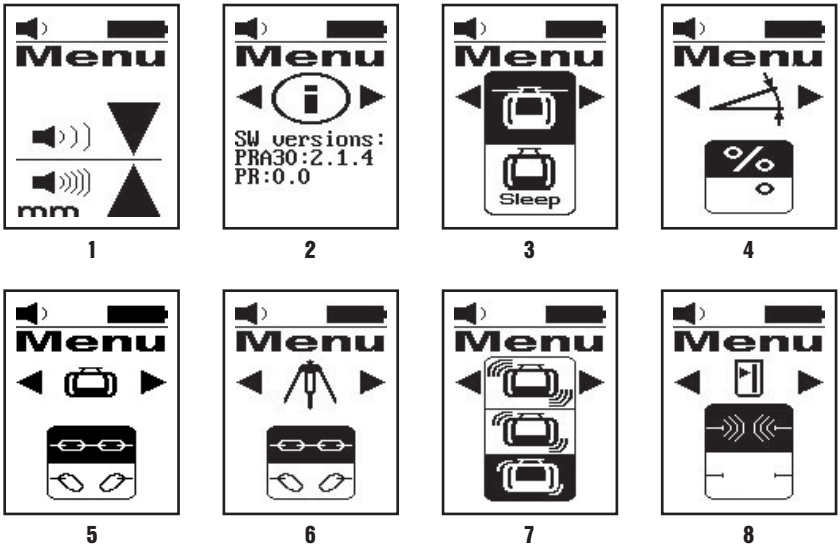
7.3.5 単位の設定 6

単位ボタンによりデジタル表示の測定精度を希望に合わせて設定できます （mm/cm/off）。

7.3.6 音量設定 6

レーザーレシーバーの電源をオンにしたとき、 音量は 「普通」 に設定されています。 音量調節ボタンを押して音量を変更することができます。「低」、「普通」、「高」 および 「オフ」 の 4 つの音量を選択できます。

7.3.7 メニューオプション 6



1. レーザーレシーバーの電源をオンにする際に ON/OFF ボタンを 2 秒間押します。
   表示ディスプレイにメニューが表示されます。
2. 単位ボタンを使用して、 メートル法とヤードポンド法を切り替えます。
3. 音量調節ボタンを使用して、 高速連続シグナル音をマーキング用切込みの上部探査範囲または下部探査範囲に割り当てます。
4. 方向選択ボタン （左 / 右） により必要に応じて種々の項目を選択できます。
   注意事項方向選択ボタン （左 / 右） により設定を選択できます。 単位ボタンによりそれぞれの設定を変更できます。 以下の設定が可能です：ソフトウェアバージョンの表示 （設定機能はありません）、 PR 30-HVS スリープモード （オフ / オン）、 傾斜モード単位（% / °）、 PR 30-HVS ペアリング （ペアリング切断）、 PRA 90 ペアリング （ペアリング切断）、 ショック警告システム感度 （高 / 中 / 低）、 無線接続 （オン / オフ）。 本体に関する設定は、 本体のスイッチがオンになっていて無線接続が確立されている場合にのみ有効です。
5. レーザーレシーバーをオフにして、 設定を保存します。
   注意事項選択された各設定は次回の電源オンの後にも有効です。

7.3.8 ダブルクリック

誤操作を防止するために、 操作の際は 「自動整準」 または 「監視」 コマンドをダブルクリックで確定する必要があります。

7.4 ショック警告システムを非作動にする

1. 本体の電源をオンにします (7.2 を参照)。
2. ショック警告システム非作動ボタンを押します。
   ショック警告システム非作動 LED が連続点灯し、この機能が非作動になっていることを知らせます。
3. 自動整準モードに戻るには、 本体の電源を一度オフにしてから再びオンにしてください。

7.5 水平モード

7.5.1 設置

1. 用途に応じて本体を三脚などにしっかりとセットします。 これに代えて、 回転レーザーをウォールマウントに取り付けることもできます。 設置面の傾斜角は最大 ± 5° です。
2. ON/OFF ボタンを押します。
   緑の自動整準 LED が点滅します。
   整準が完了するとレーザービームが照射されて回転し、 自動整準 LED は連続点灯します。

7.5.2 PRA 90 自動三脚による整準

注意事項
この機能は、 PRA 90 自動三脚と組み合せてのみ使用できます。
PRA 30 レーザーレシーバーを初めて使用する際に、 三脚とペアリングする必要があります （6.9.2 を参照）。

オプションの PRA 90 自動三脚により、 レーザーレベルの高さを手動あるいは自動で希望のレベルに設定することができます。

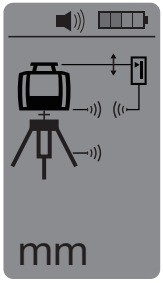
1. 本体を PRA 90 自動三脚に取り付けます。
2. 回転レーザー、 自動三脚およびレーザーレシーバーをオンにします。 続いてレーザーレベルの高さを、 手動 (7.5.3 を参照） あるいは自動 (7.5.4 を参照） で整準します。

7.5.3 手動整準 6 10

水平レベルを平行に上方または下方にずらすには、 レーザーレシーバーで 「+」 /「-」 ボタンを押すか、 あるいは PRA 90 で矢印ボタンを押します。

7.5.4 自動整準 6 11

1. レーザーレシーバーの受光領域のある側を PRA 90 の操作パネルの方向に向けて、 希望の高さに保持します。 整準中はレーザーレシーバーを動かさないように保持し、 レーザーレシーバーと本体間にレーザービームを遮る障害物がないように注意してください。
2. レーザーレシーバーの自動整準ボタンをダブルクリックします。 再度ダブルクリックすると整準が終了します。 ダブルクリックによりレーザーレベルの整準プロセスがスタートし、 三脚が上昇または下降します。 この間、 シグナル音が連続して鳴ります。 レーザービームがレーザーレシーバーの受光領域に達すると、 ビームは直ちにマーキング用切込み （センター表示） に移動します。
   指定の位置に達して本体が整準されると、 シグナル音が 5 秒間鳴ってプロセスの完了を知らせます。 これにより、「自動整準」 の記号は表示されなくなります。



3. 高さ設定をディスプレイで点検してください。
4. レーザーレシーバーを取り外します。
   注意事項自動整準プロセスに失敗した場合は、 シグナル音が短く鳴って、「自動整準」 の記号が消えます。

7.6 垂直モード

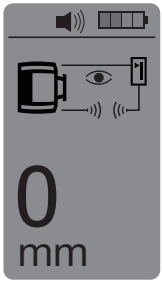
1. 垂直モードでの作業の際には、 操作パネルを上に向けた状態で、 本体を適切な三脚、 フロント面アダプターあるいはやり形アダプターに固定します。 これに代えて、 本体を後方グリップのラバーフットに取り付けることもできます。
   注意事項PRA 30 との無線接続が最良となる本体の面は、 操作パネルのすぐ右に位置する面です。
   注意事項仕様精度が守られるように、 本体は平坦な面に置くか、 三脚や他のアクセサリー上に適切に取り付けてください。
2. 本体の垂直軸を照門と照星により希望の方向に合わせます。
3. ON/OFF ボタンを押します。
   整準後に本体が、 静止した下向き （垂直方向） の回転ビームでレーザーモードを開始します。 ビームが照射されたポイントが基準ポイント （鉛直ポイントではありません） となり、 本体の位置合わせに使用されます。
4. 照射されたレーザーポイントが厳密に基準ポイント （やり形のネイルなど） に合致するように、 本体を整準します。
5. 続いてレーザーレベルを、 手動 (7.6.1を参照） あるいは自動 (7.6.2を参照） で希望の第 2 の規準ポイントに整準します。
   整準を開始すると、 レーザーは自動的に回転を始めます。

7.6.1 手動整準 6 12

1. 垂直レベルを手動で整準するには、 レーザーレシーバーで方向選択ボタン （左 / 右） を押します。

7.6.2 自動整準と監視 6 13

1. レーザーレシーバーを本体の方向へ向けて、 マーキング用切込みを希望の整準位置に保持します。
2. 自動整準ボタンをダブルクリックします。 再度ダブルクリックすると整準が終了します。
   ダブルクリックによりレーザーレベルの整準がスタートします。 この間、 シグナル音が連続して鳴ります。
   自動整準ボタンを押すと自動照準プロセスの方向を変更することができます。
   レーザービームがレーザーレシーバーの受光領域に達すると、 ビームは直ちにマーキング用切込み （センター表示） に移動します。
   指定の位置に達すると （マーキング用切込みが検知されると）、 シグナル音が 5 秒間鳴ってプロセスの完了を知らせます。
   レーザーレシーバーは自動的に監視モードになり、 レーザーレベルにずれが生じていないかを一定の時間間隔でチェックします。 ずれが生じた場合は、 可能であればレーザーレベルが再びマーキングレベルに修正されます。 マーキングレベルが ±5° の整準レベル外にある場合、 本体とレーザーレシーバーとの間に長い時間レーザービームを遮る障害物が置かれた場合、 あるいは整準プロセスに 2 分以内に成功しなかった場合には、 短いシグナル音が鳴り、 レーザーは回転しなくなり、「自動整準」 の記号は表示されなくなります。 これは、 自動整準が中止されたことを知らせるものです。



3. 監視モードを終了するには自動整準ボタンをダブルクリックします。

7.7 傾斜面での作業

7.7.1 設置

注意事項
傾斜は手動、 自動、 または PRA 79 スロープアダプターを使用して設定します。

注意事項
PRA 30 では、 設定に応じて傾斜が 「%」 または 「°」 で表示されます。 ご希望の単位の設定については、 7.3.7 章 「メニューオプション」 をご覧ください。

1. 本体を三脚などにしっかりとセットします。
2. 回転レーザーを傾斜面の上辺または下辺に位置決めしてください。
3. 操作パネルを確認できる状態で本体の後方に立ってください。
4. 本体のヘッドのターゲット切込みを使用して、 本体をおおまかに傾斜面に平行に合わせます。 整準を精密なものとするために、 傾斜の設定の後に電子傾斜整準を行ってください (7.7.4 を参照)。
5. 本体の電源をオンにして、 傾斜モードボタンを押します。 傾斜モード LED が点灯します。
   整準が完了するとレーザービームがオンになります。 PRA 30 のディスプレイに 「傾斜モード」 の記号が表示されたなら、 すぐに PR 30-HVS を傾斜させることができます。

7.7.2 傾斜手動設定 6 14

注意事項
本体が約 10° の温度変化を計測すると、 回転レーザーは約 40 秒間停止します。 この間に本体は温度変化により発生した可能性のある全てのエラーを修正します。 自動修正の後本体はレーザーレベルを再びそれまでの傾斜に設定し、 レーザーが回転します。

本体の傾斜に応じて、 21.3 % までの傾斜値を入力できます。 レーザーレシーバーの表示は傾斜角度を示します。

7.7.2.1 正の傾斜

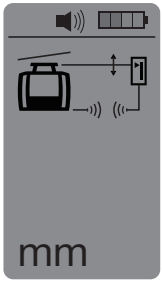
傾斜入力ボタン 「+」 により、 本体前方のレーザーレベルは上昇し、 本体後方のレーザーレベルは下降します。
1. リモートコントロールユニットの傾斜入力ボタン 「+」 を押します。
   注意事項3 秒間ボタンを押さないでいると、 本体には最後に表示された傾斜が設定されます。 その際傾斜モード LED が点滅します。
   レーザーレシーバーの表示は傾斜角度を示します。
2. 値をすばやく変更するには、 傾斜入力ボタンを長く押します。

7.7.2.2 負の傾斜

傾斜入力ボタン 「-」 により、 本体前方のレーザーレベルは下降し、 本体後方のレーザーレベルは上昇します。
1. リモートコントロールユニットの傾斜入力ボタン 「-」 を押します。
   注意事項3 秒間ボタンを押さないでいると、 本体には最後に表示された傾斜が設定されます。 その際傾斜モード LED が点滅します。
   レーザーレシーバーの表示は傾斜角度を示します。
2. 値をすばやく変更するには、 傾斜入力ボタンを長く押します。

7.7.3 傾斜自動設定 6 15

この機能により、 2 点間の傾斜したレーザーレベルを自動作成し、 この 2 点間の傾斜を計測することができます。
1. 本体をの7.7.1 の記述に従って傾斜面の上辺に設置します。
2. PRA 80/PRA 83 レシーバーホルダーを使用してレーザーレシーバーを PUA 50 伸縮スタッフなどに取り付けます。
3. レシーバーを回転レーザーのすぐ前方に配置してレーザーレベルの高さに合わせ、 伸縮スタッフに固定します。
4. レシーバーと伸縮スタッフを傾斜面の下辺に位置決めし、 自動整準ボタンをダブルクリックします。 再度ダブルクリックすると整準が終了します。
   レーザー面の整準プロセスがスタートします。 この間、 シグナル音が連続して鳴ります。 自動整準ボタンを押すと自動照準プロセスの方向を変更することができます。
   レーザービームがレーザーレシーバーの受光領域に達すると、 ビームは直ちにマーキング用切込み (センター表示) に移動します。 指定の位置に達すると (マーキング用切込みが検知されると)、 シグナル音が 5 秒間鳴ってプロセスの完了を知らせます。
   レーザーレシーバーのディスプレイの 「自動整準」 の記号が表示されなくなり、 レシーバーは自動的に通常モードになります。
   レーザーレシーバーのディスプレイに傾斜が 5 秒間表示されます。



5. レーザーレシーバーのディスプレイで 2 点（本体およびレザーレシーバーの設置位置） 間の傾斜を確認します。
注意事項レーザーレシーバーのディスプレイの傾斜表示は 5 秒後に消えます。

7.7.4 オプションの電子傾斜整準 LED

回転レーザーのおおまかな整準と傾斜の設定の後 （上記の説明を参照）、 ヒルティ特許の電子傾斜整準を使用して PR 30-HVS の整準を最適化することができます。

1. PRA 30 を PR 30-HVS に向き合うようにして傾斜面の端部中央に配置します。 PRA 30 を動かないように保持するか、 PRA 80/PRA 83 で固定します。
2. PR 30-HVS の電子傾斜整準ボタンを押して電子傾斜整準を作動させます。
PRA 30 が PR 30-HVS からのレーザービームを受光していないと、 電子傾斜整準の矢印が点滅します。
3. 左矢印が点灯したら、 PR 30-HVS を時計方向に回して整準してください。
4. 右矢印が点灯したら、 PR 30-HVS を反時計方向に回して整準してください。
PRA 30 に正しく整準されていると、 両方の矢印が点灯します。
整準に成功 （両方の矢印が 10 秒間連続点灯） すると、 機能は自動的に終了します。
5. 誤って回転させてしまわないように、 回転レーザーを三脚に固定します。
6. 電子傾斜整準は、 電子傾斜整準ボタンを押して終了させることもできます。
注意事項照門と照星によるおおまかな整準と電子傾斜整準による精密な整準とでは、 ずれが生じる可能性があります。 電子的な方法による整準は目視による方法より厳密なので、 基準として常に電子傾斜整準を利用することをお勧めします。

ja

7.7.5 PRA 79 スロープアダプターを用いて傾斜を設定する

注意事項
スロープテーブルが三脚と本体の間に正しく取り付けられていることを確認してください （PRA 79 の取扱説明書を参照）。

1. 用途に応じて PRA 79 スロープアダプターなどを三脚にしっかりと取り付けます。
2. 三脚を傾斜面の上辺または下辺に位置決めしてください。
3. 回転レーザーをスロープアダプターに取り付け、 PR 30-HVS のヘッドのターゲット切込みにより本体とスロープアダプターの位置を傾斜面に対して平行になるように調整します。 PR 30-HVS の操作パネルは傾斜方向と反対側にあるようにします。
4. スロープアダプターがスタート位置 （0°） にあることを確認してください。
5. 本体の電源をオンにします (7.2 を参照)。
6. 傾斜モードボタンを押します。
回転レーザーの操作パネルで傾斜モード LED が点灯します。
本体が自動整準を開始します。 自動整準が完了するとレーザービームが照射されて回転します。
7. スロープアダプターで希望の傾斜角度を設定します。
注意事項手動傾斜設定では PR 30-HVS はレーザーレベルを 1 回整準して、 これを固定設定します。 時間の経過とともに発生し得る振動、 温度変化、 その他の要因は、 レザーレベルの位置に影響を与えることがあります。

7.8 自動整準モードに戻る

自動整準モードに戻るには、 本体の電源を一度オフにしてから再びオンにしてください。

7.9 スリープモード

スリープモードでは、 PR 30-HVS の電流を節約することができます。 レーザーがオフになり、 バッテリーの寿命が延びます。

7.9.1 スリープモードを作動させる

1. PRA 30 がオフの状態で PRA 30 の ON/OFF ボタンを約 3 秒間押します。
2. 右方向選択ボタンを 2 回押してメニュー項目 「スリープモード」 に切り替えます。
3. PR 30-HVS のスリープモードをオンにするには単位ボタンを押します。

7.9.2 スリープモードを非作動にする

1. PRA 30 がオフの状態で PRA 30 の ON/OFF ボタンを約 3 秒間押します。
2. 右方向選択ボタンを 2 回押してメニュー項目 「スリープモード」 に切り替えます。
3. PR 30-HVS のスリープモードをオフにするには単位ボタンを押します。
4. 精度を確認するには、 PR 30-HVS を再作動させた後にレーザー設定を点検してください。

8 手入れと保守

8.1 清掃および乾燥

1. レーザー照射窓の埃は吹き飛ばしてください。
2. 指でガラス部分に触れないでください。
3. 必ず汚れていない柔らかい布で清掃してください。 必要に応じてアルコールまたは少量の水で湿してください。
   注意事項ガラス部分は粗い清掃溶剤に擦られて傷つくことがあります。 その場合、 本体の測定精度に影響が出る恐れがあります。
   注意事項プラスチック部分をいためる可能性がありますので、 他の液体は使用しないでください。
4. 製品仕様に記載された許容温度を守って本体を乾燥させてください。
   注意事項本体を保管する場合は、 保管温度を確認してください。 特に冬期および夏期には許容温度に注意してください。

8.2 Li-Ion バッテリーパックの手入れ

注意事項
Li-Ion バッテリーパックは、 NiCd または NiMH バッテリーパックとは異なりコンディショニングは必要ありません。

注意事項
充電を中断しても、 バッテリーパックの寿命に影響はありません。

注意事項
バッテリーの寿命に影響を及ぼすことなく、 いつでも充電を開始することができます。 NiCd または NiMH パックの場合のようなメモリー効果はありません。

注意事項
バッテリーパックはフル充電した状態でできるだけ涼しくて乾燥した場所に保管するのが最適です。 周囲温度が高い場所 （窓際など） にバッテリーパックを保管すると、 バッテリーパックの寿命に影響が出て、 セルの自己放電率が上昇します。

注意事項
バッテリーパックは経年劣化あるいは過負荷により容量が低下し、 そうなるとフル充電が不可能になります。 古くなったバッテリーパックを使用することはできますが、 適切な時期に新しいものに交換してください。

1. 湿気が入らないようにしてください。
2. はじめてお使いになる前にはバッテリーパックをフル充電してください。
3. 本体出力が明らかに低下したなら直ちにバッテリーパックを充電してください。
   注意事項遅滞ない充電によりバッテリーパックの寿命を長くすることができます。
   注意事項バッテリーパックを使い続けていると、セルの損傷を防ぐために放電が自動的に終了し、本体はオフになります。
4. バッテリーパックは Li-Ion バッテリーパック用に許可されたヒルティ充電器で充電してください。

8.3 保管

1. 本体が濡れた場合はケースに入れないでください。 本体、 本体ケースおよびアクセサリーを動作温度に注意して乾燥させて、 清掃してください。 本体は完全に乾燥した状態で本体ケースに収納してください。
2. 長期間保管した後や搬送後は、 使用前に本体の精度をチェックしてください。
3. 長期にわたって保管する場合には、 バッテリーパックと電池を本体およびレーザーレシーバーから抜き取ってください。 バッテリーパックおよび電池から流れ出た液体で、 本体とレーザーレシーバーに損傷を与える可能性があります。

8.4 搬送

搬送や出荷の際は、 本体をヒルティの本体ケースか同等の質のものに入れてください。
注意
搬送あるいは送付の際は、 バッテリーパックと電池を本体およびレーザーレシーバーから抜き取ってください。

8.5 ヒルティ校正サービスによる校正

各種の規則に従った信頼性を保証するためには、 本体の定期点検を第三者の校正機関に依頼されることをお勧めします。
ヒルティ校正サービスはいつでもご利用できますが、少なくとも年に 1 回は本体の校正を行うことをお勧めします。

ヒルティ校正サービスでは、 本体が点検日の時点で、 取扱説明書に記載されている製品仕様を満たしていることが証明されます。
本体が仕様範囲にない場合は、 再調整します。 調整と点検の終了後調整済みステッカーを貼って、 本体がメーカー仕様を満たしていることを証明書に記載します。
校正証明書は ISO 900X を認証取得した企業には、 必ず必要なものです。
詳しくは、 弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にご連絡ください。

8.6 測定精度の点検

注意事項
技術的な製品仕様を維持するには、 本体を定期的に (少なくとも大きな仕事 / 重要な仕事の前に) 点検してください。

注意事項
以下の条件において、 本体は落下の後にも落下前と同じ精度で動作するものと考えることができます。

落下の際に製品仕様に記載の落下高さを超過していなかった。
本体が落下の際に機械的な損傷 (ペンタプリズムの破損など) を受けなかった。
本体は動作時に回転レーザー光線を生成する。
本体は落下前にも正常に動作していた。

8.6.1 水平方向の主軸と横軸をチェックする 16

1. 三脚を壁から約 20 m 離して設置し、 三脚ヘッドを水準器で水平に調整します。
2. 本体を三脚に取り付け、 ターゲット切込みを用いて本体ヘッドを壁に位置決めします。
3. レシーバーを使用してポイント (ポイント 1) を受け、 壁にケガきます。
4. 本体軸を中心として本体を時計回りに 90º 回転させます。 このとき本体の高さを変えてはなりません。
5. レーザーレシーバーを使用してポイント (ポイント 2) を受け、 壁にケガきます。
6. ステップ 4 と 5 をさらに 2 回繰り返し、 ポイント 3 とポイント 4 をレシーバーで受けて、 壁にケガきます。
   ケガいたポイント 1 と 3 間 (主軸) またはポイント 2 と 4 間 (横軸) の垂直方向の間隔がそれぞれ 3 mm 以内であれば、 本体の精度は仕様の範囲内にあります (20 m の場合)。 この間隔が 3 mm より大きい場合は、 本体の校正をヒルティサービスセンターに依頼してください。

8.6.2 垂直軸のチェック 17 18

1. 本体を壁から約 20 m 離して、 できるだけ平坦な床に垂直に設置します。
2. 本体のグリップを壁と平行に向けます。
3. 本体をオンにし、 基準ポイント (R) を床にケガきます。
4. レシーバーを使用して、 ポイント (A) を壁の下端にケガきます。 中速を選択します。
5. レシーバーを使用して、 約 10 m の高さにポイント (B) をケガきます。
6. 本体を 180º 回転させ、 床の基準ポイント (R) と壁の下端にケガいたポイント (A) に整準します。
7. レシーバーを使用して、 約 10 m の高さにポイント (C) をケガきます。
8. 10 m の高さにケガいたポイント (B) と (C) 間の水平方向の間隔が 1.5 mm 以内 (10 m の場合) であるか、 点検します。
   注意事項この間隔が 1.5 mm より大きい場合は、 本体の校正をヒルティサービスセンターに依頼してください。

ja

9 故障かな？ と思った時

症状	考えられる原因	処置
インジケーターに示される印	PRA 30 が PR 30-HVS とペアリングされていません。	これらの装置をペアリングしてください (6.9 章を参照)。
インジケーターに示される印	無効なボタン入力です。 基本的にコマンドは行えません。	いずれかの有効なボタンを押してください。

症状	考えられる原因	処置
インジケーターに示される印	コマンドは可能ですが、本体が応答しません。	全ての装置をオンにし、 無線を良好に受信できる範囲に移動してください。 装置間に障害物がないかとを確認してください。 最大無線到達距離にも注意してください。 良好な無線接続を確立するには、 PR 30-HVS および PR 30 を床から 10 cm 以上離して設置してください。
インジケーターに示される印	本体が監視モードです。 再整準が不可能でした。	PR 30-HVS と PRA 30 の配置、 および PR 30-HVS と PRA 30 の間にレーザービームを遮る障害物がないか、チェックしてください。 自動整準を再スタートさせてください （「自動整準および監視」 の章を参照）。
インジケーターに示される印	本体がスリープモードです （本体は最長 4 時間スリープモードになります）。	本体を作動させます （「スリープモードを非作動にする」 の章を参照）。
インジケーターに示される印	PR 30-HVS バッテリーパックの充填状態が十分ではありません。	バッテリーパックを充電するか、他のバッテリーパックを使用するか、あるいは PR 30-HVS を 「動作中の充電」 （屋外での使用時および湿気のある環境での使用時を除く） で使用します。

10 廃棄

警告事項
機器を不適切に廃棄すると、 以下のような問題が発生する恐れがあります。
プラスチック部品を燃やすと毒性のガスが発生し、 人体に悪影響を及ぼすことがあります。
電池は損傷したりあるいは激しく加熱されると爆発し、 毒害、 火傷、 腐食または環境汚染の危険があります。
廃棄について十分な注意を払わないと、 権限のない者が装備を誤った方法で使用する可能性があります。 このような場合、 ご自身または第三者が重傷を負ったり環境を汚染する危険があります。

本体の大部分の部品はリサイクル可能です。 リサイクル前にそれぞれの部品は分別して回収されなければなりません。 多くの国でヒルティは、 本体や古い電動工具をリサイクルのために回収しています。 詳細については弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店にお尋ねください。

EU 諸国のみ

本体を一般ゴミとして廃棄してはなりません。

古い電気および電子工具の廃棄に関するヨーロッパ基準と各国の法律に基づき、 使用済みの電気工具は一般ゴミとは別にして、 環境保護のためリサイクル規制部品として廃棄してください。

バッテリーは、 各国の規制に従って廃棄してください。

11 本体に関するメーカー保証

ヒルティは提供した本体に材質的または、 製造上欠陥がないことを保証します。 この保証はヒルティ取扱説明書に従って本体の操作、 取り扱いおよび清掃、 保守が正しく行われていること、 ならびに技術系統が維持されていることを条件とします。 このことは、 ヒルティ純正の、 消耗品、 付属品、 修理部品のみを本体に使用することができることを意味します。

この保証で提供されるのは、 本体のライフタイム期間内における欠陥部品の無償の修理サービスまたは部品交換に限られます。 通常の摩耗の結果として必要となる修理、 部品交換はこの保証の対象となりません。

上記以外の請求は、 拘束力のある国内規則がかかる請求の排除を禁じている場合を除き一切排除されます。 とりわけ、 ヒルティは、 本体の使用目的の如何に関わらず、 使用した若しくは使用できなかったことに関して、 またはそのことを理由として生じた直接的、 間接的、 付随的、 結果的な損害、 損失または費用について責任を負いません。 市場適合性および目的への適合性についての保証は明確に排除されます。

修理または交換の際は、 欠陥が判明した本体または関連部品を直ちに弊社営業担当またはヒルティ代理店・販売店宛てにお送りください。

以上が、 保証に関するヒルティの全責任であり、 保証に関するその他の説明、 または口頭若しくは文書による取り決めは何ら効力を有しません。

12 FCC 注意事項 (米国用) / IC 注意事項 (カナダ用)

注意
本体は FCC Part 15 で規定されたクラス B のデジタル装置の制限に適合していることがテストで確認されています。 これらの制限は住宅区域で本体を使用したときに、 有害な干渉を防止するための十分な保護を規定しています。 この種の機器は、 高周波を生成、 使用し、 放射する可能性もあります。 取扱説明書に従わず設置、 使用した場合は、 無線通信に有害な干渉を引き起こすことがあります。

しかしながら特定の使用状況において干渉が発生しないと保障できない場合もあります。 本体の電源を一度 OFF にした後に再び ON をすることにより、 本体が干渉の原因であるかどうか確認できます。 本体がラジオまたはテレビ受信を干渉している場合、 使用者は以下の処置により干渉回避に努めてください：

受信アンテナの向きを変える、 または位置をずらす。

本体とレシーバーの間隔を広げる。

本体をレシーバーの回線とは違うコンセントにつなぐ。

お買い上げになったラジオやテレビの販売店や技術者に相談する。

注意事項
ヒルティからの明確な許可なしに本体の改造や変更を行うと、 使用者が本体を操作する権利が制限されることがあります。

この装置は FCC 注意事項 Paragraph 15 と IC 注意事項 RSS-210 に適合しています。

ご使用前に以下の点につき、 ご了承下さい。

本体は有害な干渉を引き起こさないでしょう。

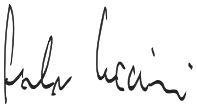
本体は、 予期せぬ操作を引き起こすような干渉をも受信する可能性があります。

13 EU 規格の準拠証明 (原本)

名称：	回転レーザー
機種名：	PR 30-HVS
製品世代：	01
設計年：	2013

この製品は以下の基準と標準規格に適合していることを保証します：
2011/65/EU、2006/95/EG、2006/66/EG、2004/108/EG、1999/5/EG 、 EN ISO 12100 、 EN 300 440-2 V1.4.1、 EN 301 489-1 V1.9.2、 EN 301 489-17 V2.2.1.

Hilti Corporation 、 Feldkircherstrasse 100 、 FL-9494 Schaan



Paolo Luccini
Head of BA Quality and Process Management
Business Area Electric Tools & Accessories
03/2013

Matthias Gillner
Head BU Measuring Systems
BU Measuring Systems
03/2013

技術資料：

Hilti Entwicklungsgesellschaft mbH
Zulassung Elektrowerkzeuge
Hiltistrasse 6
86916 Kaufering
Deutschland

Hilti Corporation
LI-9494 Schaan
Tel.: +423 / 234 21 11
Fax: +423 / 234 29 65
www.hilti.com

Hilti = registered trademark of Hilti Corp., Schaan
W 4271 | 1113 | 00-Pos. 3 | 1
Printed in Germany © 2013
Right of technical and programme changes reserved S. E. & O.

2067369 / A3

Printed: 29.11.2013 | Doc-Nr: PUB / 5142610 / 000 / 02